

株式会社トモク

2025年3月期第2四半期 決算説明資料

2024年11月28日



東証プライム
3946

1. 2025年3月期第2四半期決算
2. 2025年3月期通期見通し
3. 成長戦略と事業の進捗状況について
－ 第2次中期経営計画中心に －
4. 企業価値向上へ向けての取り組みの進捗状況



「包む」をイノベーションする。

2025年3月期第2四半期決算



TOMOKU

売上高 1,050億円（前年同期比+2.6%）

営業利益 31.4億円（同+1.4%）

段ボール

売上高600億円（前年同期比+0.9%）、セグメント利益40.5億円（同△0.9%）

国内：主力の加工食品向け販売量が寄与。製品値上げ効果は限定的。
海外：米国・ベトナムともに現地需要の獲得により販売量は前年を上回る。

住宅

売上高226億円（前年同期比+4.1%）、セグメント利益△12.6億円（同+2.2億円）

お客様の多様なニーズにマッチした住宅の販売と適正価格への値上げに取り組んだ結果、販売棟数及び売上高は前年対比増加。

運輸倉庫

売上高223億円（前年同期比+5.9%）、セグメント利益8.4億円（同△8.4%）

大手小売業センター向け保管型物流センターの稼働が増収に寄与。
人件費の高騰や新規センター稼働に伴う準備コストの負担増加。

2025年3月期上期決算概要：収益性はほぼ前年同期並み。営業利益率は3.0%



売上高は、段ボール事業及び運輸倉庫事業の値上げ効果が限定的で期初計画比届かず。
営業利益はほぼ想定通り。経常利益は為替(円高)影響で減少。

(百万円)	2024年3月期 上期	構成比 (%)	2025年3月期 上期	構成比 (%)	前年 同期比 (%)	期初計画 2024/5/8 公表	期初計画比
売上高	102,367	100.0	105,061	100.0	2.6	108,500	△3,439
売上原価	86,008	84.0	88,208	84.0	2.6	-	-
売上総利益	16,359	16.0	16,853	16.0	3.0	-	-
販売費及び 一般管理費	13,255	12.9	13,706	13.0	3.4	-	-
営業利益	3,103	3.0	3,147	3.0	1.4	3,200	△53
経常利益	3,559	3.5	3,060	2.9	△14.0	3,300	△240
親会社株主 帰属純利益	2,217	2.2	1,915	1.8	△13.6	2,000	△85

昨年上期と比べて26億円の増収、44百万円の営業増益だが、収益構造は変わらず。

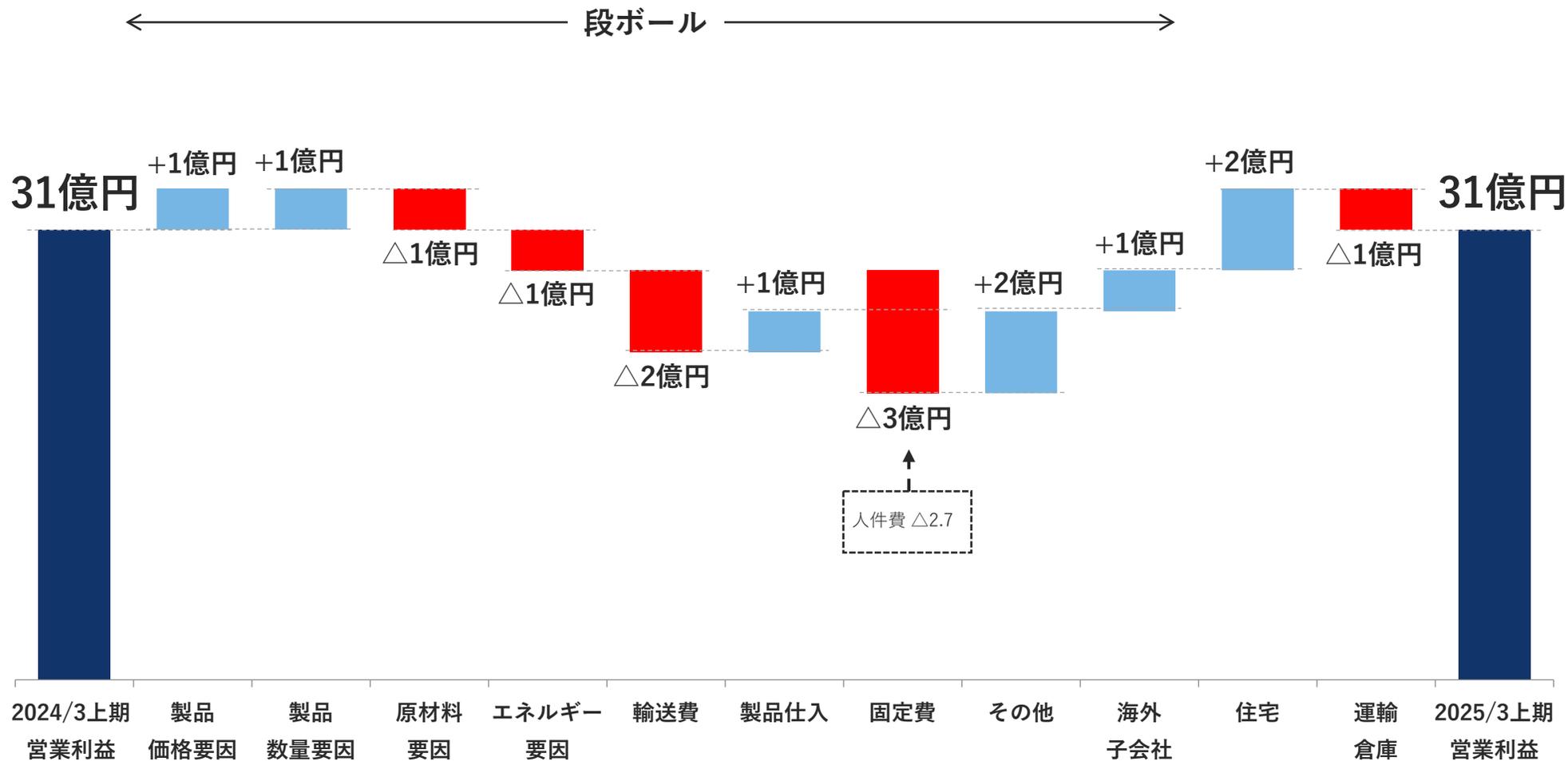
(百万円)	2024年3月期				2025年3月期		
	上期	構成比 (%)	下期	構成比 (%)	上期	構成比 (%)	前年同期比
売上高	102,367	100.0	109,159	100.0	105,061	100.0	+2,694
売上原価	86,008	84.0	90,720	83.1	88,208	84.0	+2,200
売上総利益	16,359	16.0	18,438	16.9	16,853	16.0	+494
販売費及び 一般管理費	13,255	12.9	13,485	12.4	13,706	13.0	+451
営業利益	3,103	3.0	4,954	4.5	3,147	3.0	+44
経常利益	3,559	3.5	5,055	4.6	3,060	2.9	△499
親会社株主帰属 純利益	2,217	2.2	3,091	2.8	1,915	1.8	△302

2025年3月期上期セグメント別・前年同期比較（上期）

段ボール事業の収益性は変わらず。住宅事業は増収の影響で赤字幅が縮小。

(百万円)		2024年3月期				2025年3月期		
		上期	構成比 (%)	下期	構成比 (%)	上期	構成比 (%)	前年同期比
段ボール	売上高	59,493	58.1	58,472	53.6	60,053	57.2	+0.9%
	セグメント利益 (利益率)	4,088 (6.9%)	-	3,561 (6.1%)	-	4,051 (6.7%)	-	△0.9%
住宅	売上高	21,732	21.2	32,319	29.6	22,624	21.5	+4.1%
	セグメント利益 (利益率)	△1,481 (-)	-	1,740 (5.4%)	-	△1,266 (-)	-	+215
運輸倉庫	売上高	21,141	20.7	18,368	16.8	22,383	21.3	+5.9%
	セグメント利益 (利益率)	922 (4.4%)	-	195 (1.1%)	-	845 (3.8%)	-	△8.4%
合計	売上高	102,367	100.0	109,159	100.0	105,061	100.0	+2.6%

コスト増加と住宅事業や段ボール海外子会社の収益改善がほぼ拮抗（前年同期比±0億円）

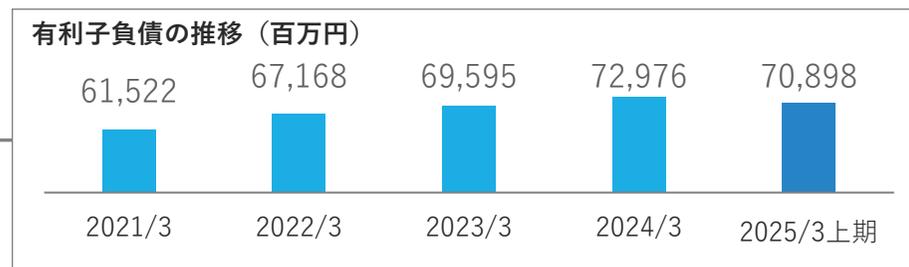
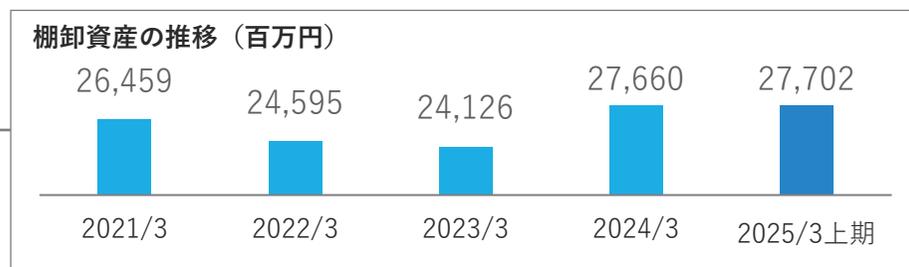


借入金返済や設備資金の支払いで現預金が減少。

有利子負債は20億円減少の708億円。D/Eレシオは減少傾向。

資産の部	2024年3月期	2025年3月期上期	(百万円) 増減
流動資産	93,759	89,544	△4,215
現預金	18,125	13,548	△4,577
売上債権	39,842	40,726	884
棚卸資産	27,660	27,702	42
固定資産	119,606	117,817	△1,789
有形固定資産	96,350	94,608	△1,742
投資その他の資産	22,204	22,335	131
資産合計	213,366	207,362	△6,004

負債・純資産の部	2024年3月期	2025年3月期上期	増減
流動負債	66,491	61,325	△5,166
支払手形・買掛金	23,518	22,046	△1,472
短期借入金	13,511	13,443	△68
一年以内の長期借入金	12,110	10,938	△1,172
固定負債	57,671	56,370	△1,301
長期借入金	47,355	46,517	△838
純資産	89,203	89,665	462
(内自己株式)	△4,185	△4,145	40
負債・純資産合計	213,366	207,362	△6,004



売上債権・棚卸資産増加額の減少で営業キャッシュ・フローは増加、フリーCFは改善

(百万円)	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期	備考
現金・同等物 期初残高	14,882	17,992	
営業活動CF	279	2,860	売上債権の増加額△956（前期は△4,867） 棚卸資産の増加額△205（前期は△3,147）
投資活動CF	△6,270	△4,744	有形固定資産取得△6,375 （設備投資△2,829、設備未払金減少△3,606）
フリーCF	△5,991	△1,884	
財務活動CF	4,123	△2,558	
現金・同等物 期末残高	13,231	13,415	



「包む」をイノベーションする。

2025年3月期通期見通し



TOMOKU

2025年3月期下期 (見通し)	
段ボール	<ul style="list-style-type: none">(国内) ・引き続き製品の安定供給のための価格適正化を推進・EC向け片面段ボール封筒の本格稼働(海外) ・賃金の高騰などコスト増加が継続・ローカル需要取り込みにより拡販
住宅	<ul style="list-style-type: none">・前期獲得した各賞の徹底アピール・スウェーデンハウス：幅広いお客様ニーズに対応した商品プラン拡充 価値に見合う適正価格への値上げを継続・玉善：高品質な分譲住宅の建築と効率的な販売推進 名古屋市近郊の有望エリアへ事業エリアを拡大
運輸倉庫	<ul style="list-style-type: none">・引き続き価格転嫁を積極的に推進・宝樹運輸(株)と関西宝樹運輸(株)の合併

2025年3月期見通し：通期見通し変更せず、営業利益100億円超えを想定

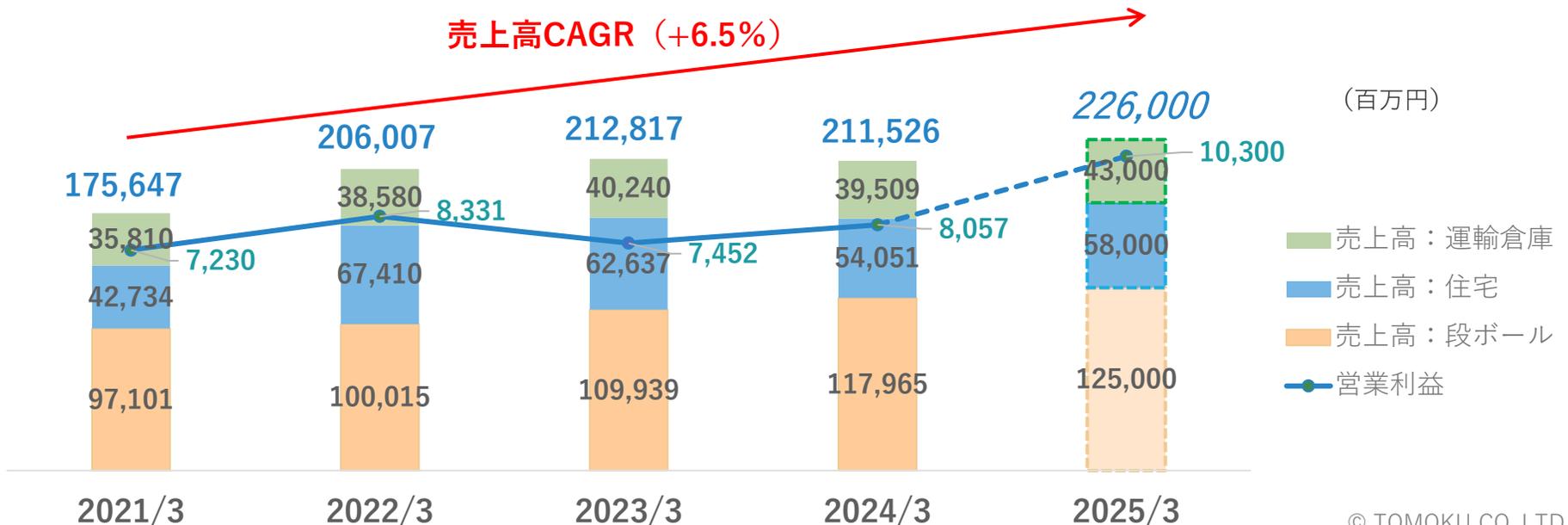
売上高2,260億円 (+6.8%) 営業利益103億円 (+27.8%)

段ボール・運輸倉庫事業は価格改定、住宅事業はブランド力訴求で、最高益更新を見込む

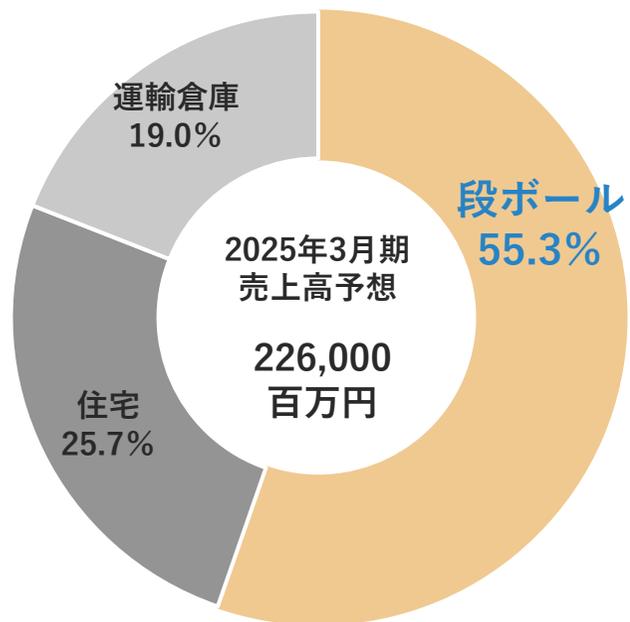
(百万円)	2024年3月期 (実績)	構成比 (%)	2025年3月期 (計画)	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	211,526	100.0	226,000	100.0	+6.8
営業利益	8,057	3.8	10,300	4.6	+27.8
経常利益	8,614	4.1	10,400	4.6	+20.7
親会社株主帰属純利益	5,308	2.5	7,000	3.1	+31.9

<2021年3月実績 ⇒ 2025年3月期 (予想) 売上高CAGR>

売上高CAGR (+6.5%)

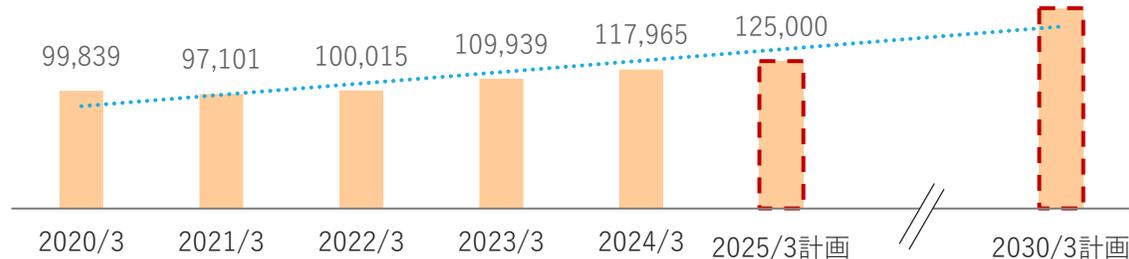


セグメント別売上高構成比



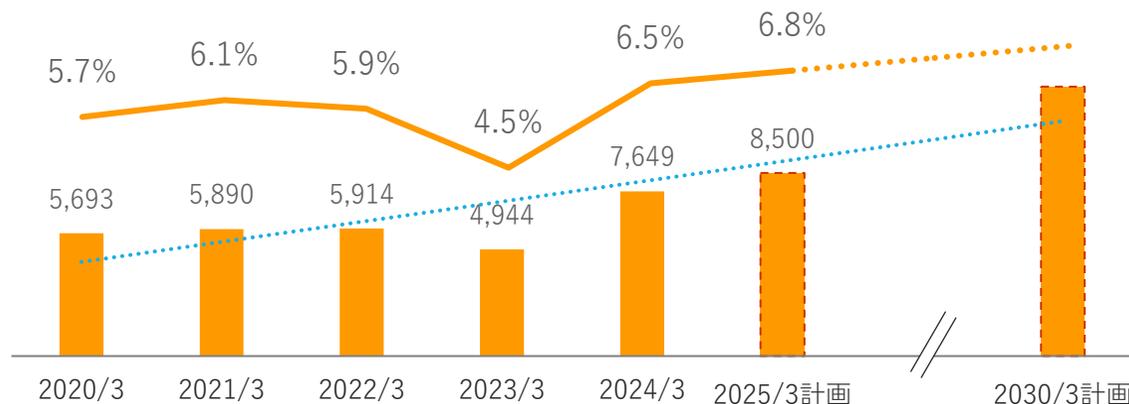
【売上高推移】

(百万円)

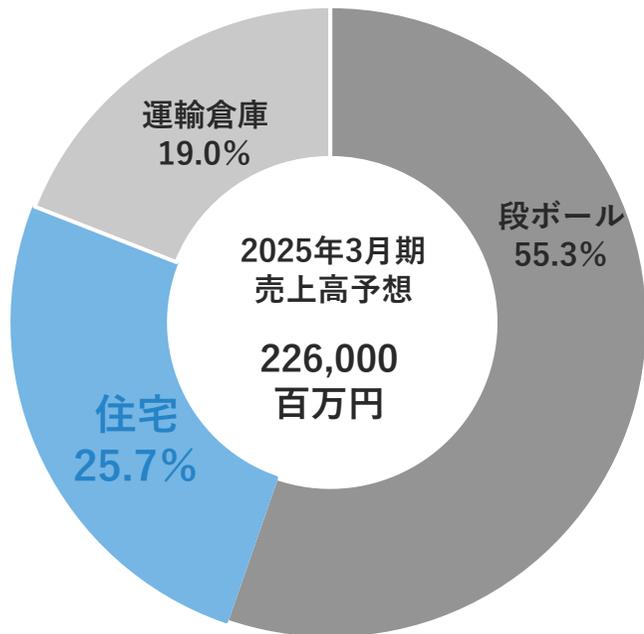


【営業利益・営業利益率推移】

(百万円)

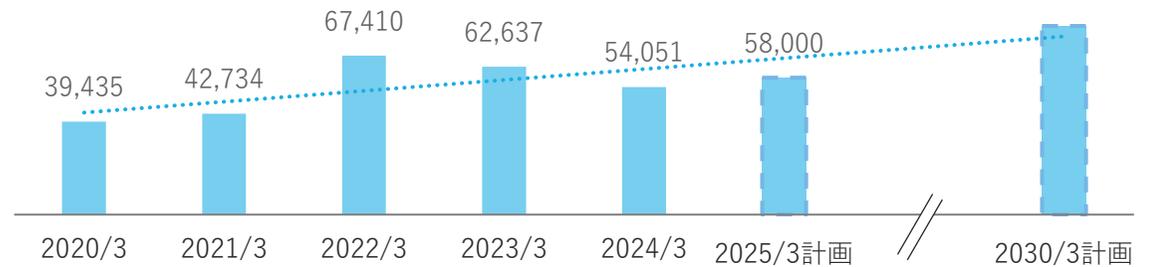


セグメント別売上高構成比



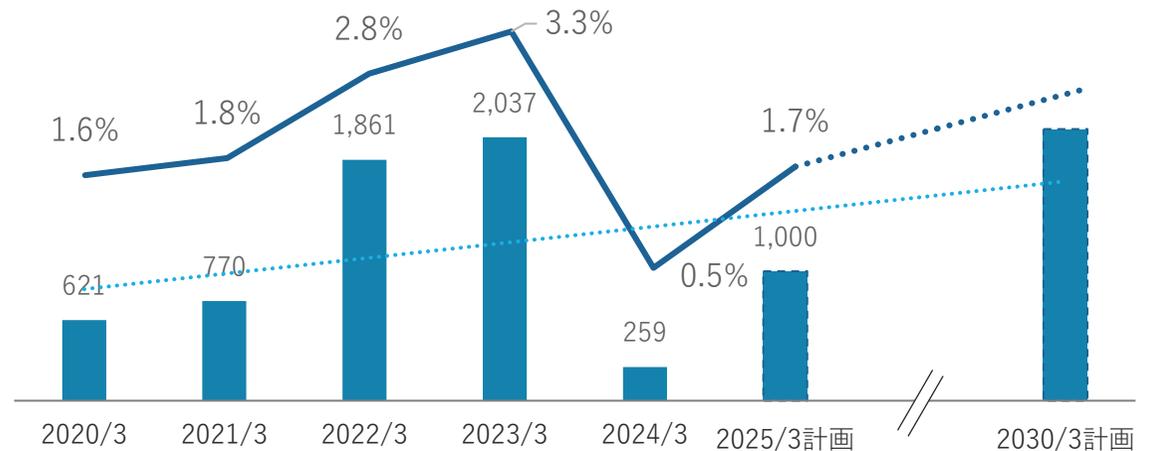
【売上高推移】

(百万円)

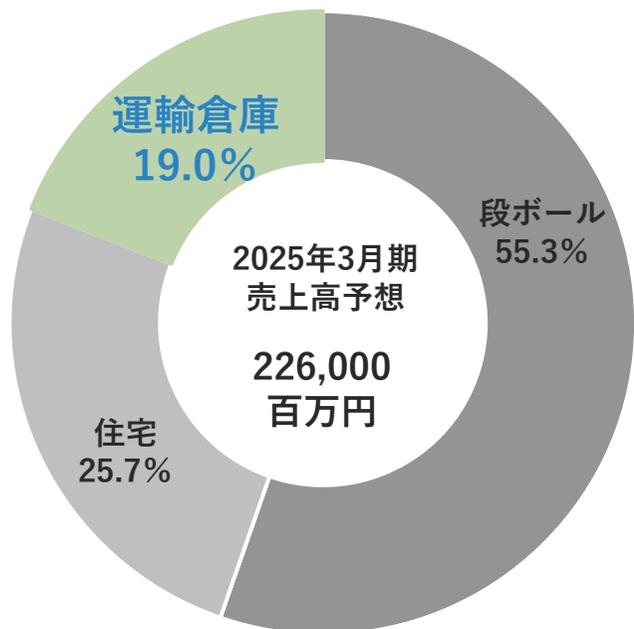


【営業利益・営業利益率推移】

(百万円)

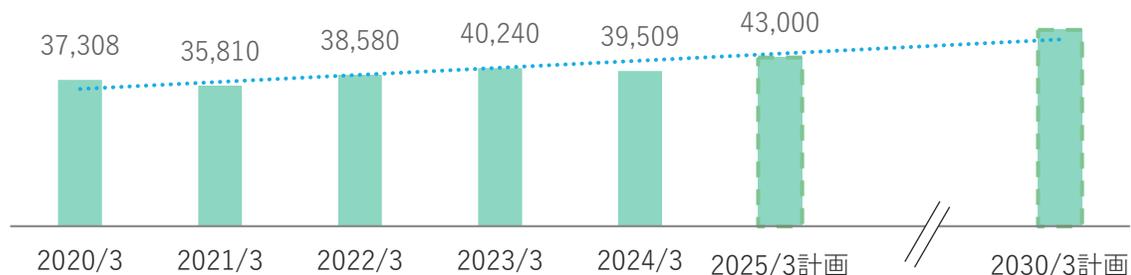


セグメント別売上高構成比



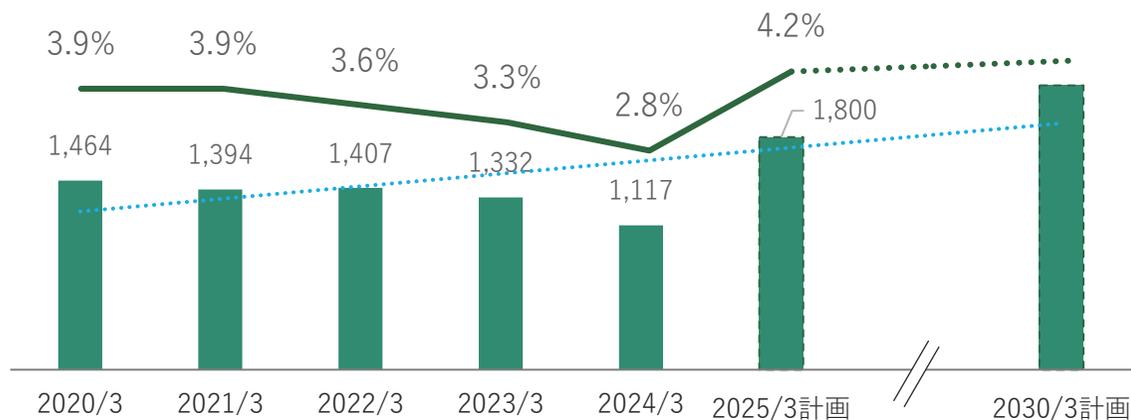
【売上高推移】

(百万円)



【営業利益・営業利益率推移】

(百万円)





「包む」をイノベーションする。

成長戦略と事業の進捗状況について －第2次中期経営計画を中心に－



TOMOKU

段ボール加工専門メーカー国内最大手

段ボール加工専門メーカーとして、唯一無二の地位。
自社段ボールを使って食品・飲料を運ぶ運輸倉庫事業も有力顧客を抱えて強い。

段ボール・住宅・運輸倉庫からなるユニークなハイブリッド型事業体

祖業の缶詰用「木箱」の製造・販売から派生して、現在の主要3事業が誕生。

「箱」と「木」から事業が拡大	「箱」	→	箱をつくる	→	段ボール製造
		→	箱を運ぶ	→	トラック輸送
	「木」	→	高品質木造住宅	→	スウェーデンハウス

3つの事業基盤から得られる安定的・持続的な売上高・利益成長

2021年3月期～2025年3月期（予想）

売上高 CAGR +6.5%、営業利益 CAGR +9.3%

2025年3月期は過去最高益を更新へ

中長期数値目標：期初に1年先送りを決定したが、成長ペースに大きな変化なし

(背景) 個人消費の弱含み傾向継続と想定以上の原材料高など事業環境の悪化

「第2次中期経営計画」最終年度

2026年3月期	
売上高	2,500億円
（段ボール）	1,320億円
（住宅）	730億円
（運輸倉庫）	450億円
営業利益率	5.8%
ROE	10.0%以上

更なる成長



「長期経営目標」最終年度

2030年3月期	
売上高	3,000億円
（段ボール）	1,700億円
（住宅）	800億円
（運輸倉庫）	500億円
ROE	12.0%以上

売上高5年CAGR予想 +6.5%
 営業利益5年CAGR予想 +9.3%

第2次中期経営計画の投資状況 (2024年9月末現在)

総額257億円（設備投資累計232億円＋M&A25億円）を段ボール事業中心に投資したが、
 期初計画に比べて遅れている状況



段ボール



住宅



運輸倉庫

設備投資	中計枠	400億円（海外含む）	50億円	50億円
	実績	累計：191億円 減価償却費：139億円 ・生産能力強化 工場用地取得 工場建物新設 最新鋭設備導入 ・環境対応 ボイラー燃料を重油からガスへ LED、バッテリーリフト	累計：18億円 減価償却費：13億円 ・モデルハウス建築 2023.3期： 苫小牧・吉岡・箕面 2024.3期： 明石・建仮（りんくう・函館） 2025.3期： りんくう・函館・大分・長崎	累計：23億円 減価償却費：37億円 ・車両増車、入替
M&A	中計枠	200億円		
	実績	・Khang Thanh（ベトナム） ・コスモス工業（日本） ・大和段ボール（日本）	25億円	

新青森工場：今年1月から稼働開始。BCP対策強化。

大和段ボール：千葉で長い歴史と実績のある段ボールシート専門メーカーを子会社化

2024年1月 青森県青森市	新青森工場（移転） 敷地面積33,500m ² 建物面積16,900m ²	投資額64億円 (約10,100坪) (約 5,100坪)	上半期は順調に稼働
-------------------	---	-------------------------------------	-----------



2024年9月 投資額2億円
大和段ボール株式会社の
株式取得（子会社化）

千葉県野田市
1953年9月設立
敷地面積3,000m²
(約900坪)



EC向け片面段ボール封筒生産設備が本格稼働、
量産体制確立



高付加価値製品の販売量拡大



圧倒的な省人化を実現した
専用複合機ライン



インクジェットプリンター
によるオンデマンド印刷

環境性や利便性を評価された当社開発商品
「サッとスタックトレ」



2024年日本パッケージコンテスト入賞、
2024年度グッドデザイン賞を受賞



- ・組み立て簡単
- ・生産性が高くリーズナブル
- ・積み重ね保管可、店舗陳列も容易



高度で多様化したお客様ニーズに対応

段ボール事業戦略③ 海外：ベトナム・現地企業の完全子会社化で紙器事業を本格展開

現地紙器製造販売会社（カンタン社）を完全子会社化

ベトナムで段ボール事業と紙器事業を展開、現地での事業基盤を強化

経済成長著しいASEANエリアでの需要回復、更なる成長を見込む



ベトナム

<2025年3月期上期実績>

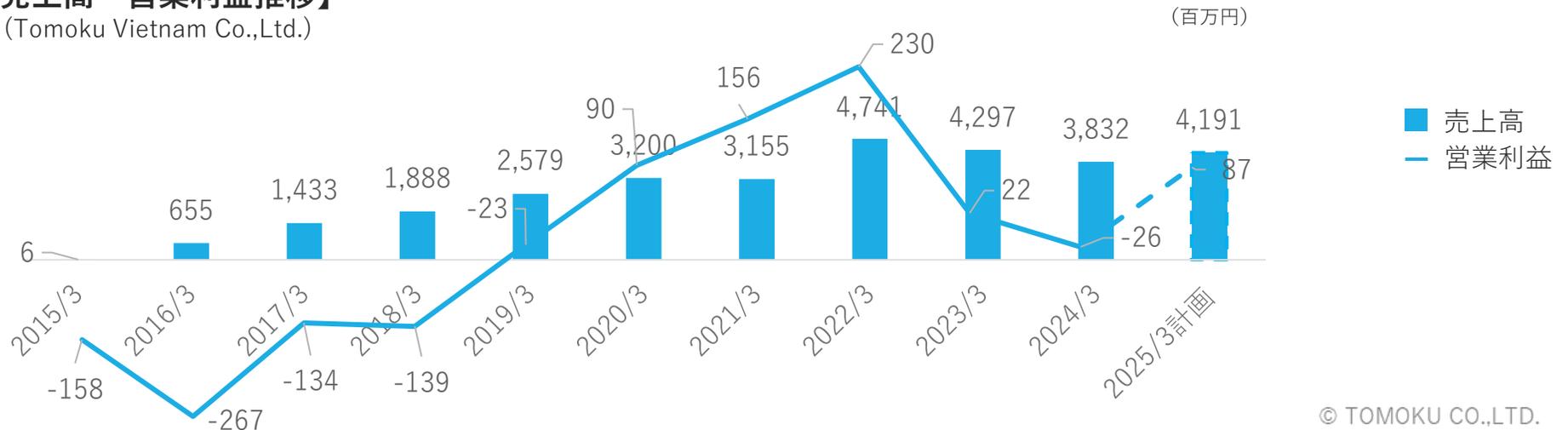
販売量：+10.2%（前期比）
 売上高：△2.6%（同上）
 営業利益：+40百万円（同上）

【カンタン社製品】



【売上高・営業利益推移】

(Tomoku Vietnam Co.,Ltd.)



新規設備を活かした拡販

米国は魅力的な世界第2位市場

米国・カルフォルニア

<2025年3月期上期実績>

販売量： +6.4% (前期比)

売上高： +3.0% (同上)

営業利益： +20.2% (同上)

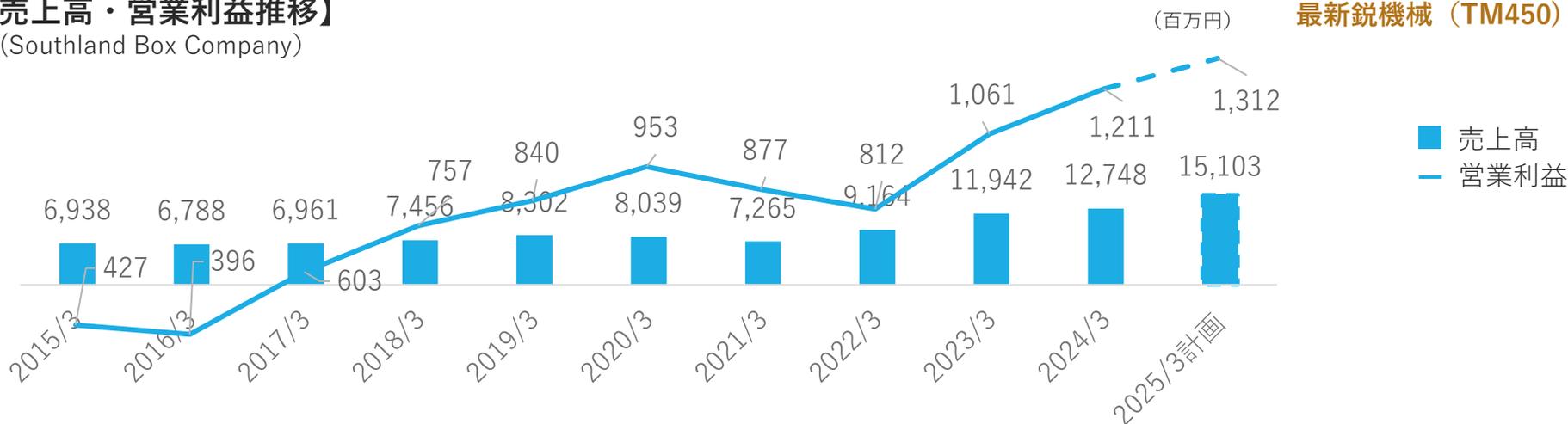
SOUTHLAND BOX COMPANY
2021年12月落成 生産能力 2.0倍



米国仕様の最新鋭機械 (TM450)

【売上高・営業利益推移】

(Southland Box Company)



スウェーデンハウスの強み：

高機能・高品質・省エネによる高付加価値住宅の提供とそのブランド価値

- ・ 高気密・高断熱で環境に優しい高品質の木造住宅
- ・ 高い外部評価・ブランド価値

オリコン顧客満足度調査ハウスメーカー注文住宅 10年連続総合1位
(価格の納得感、デザイン、住居の性能等 13項目で4年連続1位)

東京エコビルダーズアワード 「リーディングカンパニー賞」を受賞



中長期的な事業戦略

- ・ 高品質住宅を求める消費者へ、強みである高資産価値の訴求と適正価格の追求
- ・ 社会構造の変化やニーズ・嗜好の多様化に合わせたカスタマイズ住宅・商品ラインアップの充実



若年層向け規格住宅
「SAKITATE」



100年住宅
「MAKT II (マクトII)」



小世帯向けコンパクト住宅
「Lagom kubisk」

+

上記を支える組織体質の強化 (グループ調達機能統合など間接部門の共通化推進)

「玉善」の強み：

中京地区での用地取得力と合わせた、デザイン力を武器にした建売住宅提供力
(オリコン顧客満足度調査：建売住宅ビルダー東海デザイン部門で4年連続第1位)

外部環境認識

住宅需要は弱い

新規住宅着工件数（分譲住宅）は減少傾向継続（～2024年9月まで）
しかし、当社の販売実績は上期回復傾向（前年同期比+5%）

中長期的な事業戦略

- デザイン・ブランド力を武器とした適正売価の実現
- 営業手法の強化

効率的な販売推進

（条件付き宅地販売の強化など、分譲住宅の資産回転率を上げる）

- 販売エリアの拡大

名古屋市近郊の有望エリアへ事業エリアを拡大（一宮市、西三河エリアへの進出など）

当社の強み：段ボールユーザー（飲料メーカーなど）向けの顧客密着型配送支援業務

- 段ボールの供給と包装商品の配送をセットで行う効率的な輸送・保管業務
- 顧客との接点が近いので、顧客のニーズ・要望に迅速に対応、満足度が高い



事業基盤への取り組み

- 2024年問題は効率性を強化
（配送システムを再構築、残業時間削減とトラック稼働率向上の両立を実現）
- 環境負荷低減も順調に進捗（バッテリーリフト、LED照明・人感センサーライトの導入など）



中長期的な事業戦略

- 取扱商品・顧客層の拡大（得意分野の飲料メーカー＋飲料以外）
- 事業拡大へ配送拠点とネットワーク網の強化
- 災害時の物資配送拠点として社会的プレゼンスの向上





「包む」をイノベーションする。

企業価値向上へ向けての取り組みの進捗状況 ～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応～



TOMOKU

主に決算説明会と個別面談を通じて株主・投資家との対話を実施

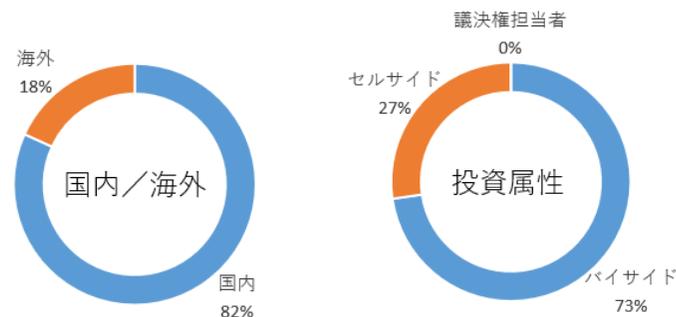
<対話・面談の実施状況>

2024年度上半期の対話・面談実績：12回（11社）

<主な対応者>

決算説明会	代表取締役 社長執行役員 取締役 専務執行役員 取締役 常務執行役員
個別面談	取締役 専務執行役員 取締役 常務執行役員
株主総会	全ての取締役及び監査役
トーモク共栄会	取締役 専務執行役員

<株主・投資家の属性概要>



<対話の主なテーマや株主の関心事項>

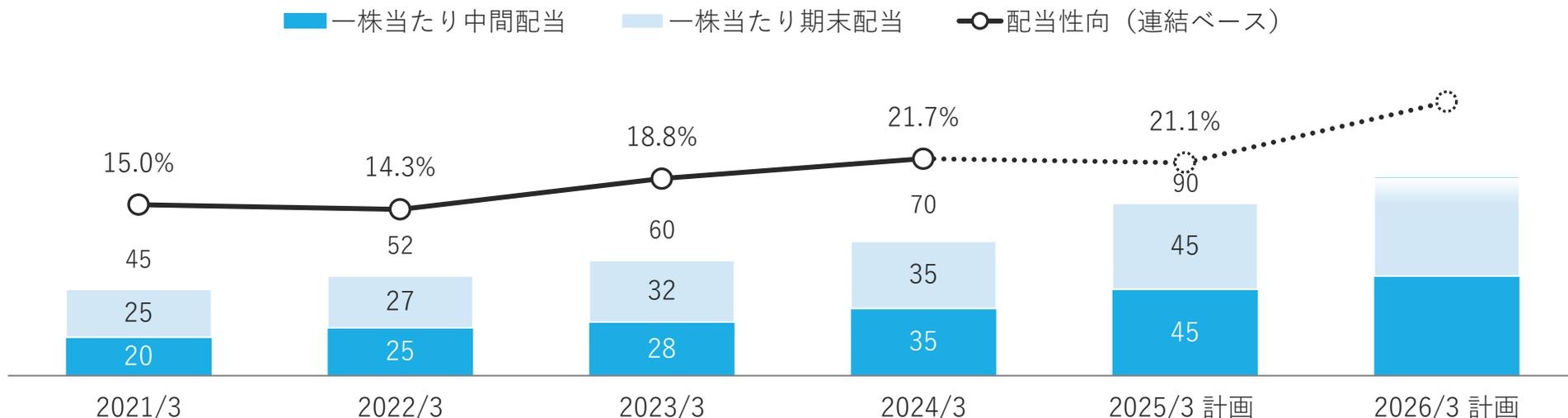
- ✓ 当社グループ全体の業績見込み/予想
- ✓ 事業毎の外部環境や業績見込み/予想
- ✓ 業績の増減要因
- ✓ 第2次中期経営計画の進捗と今後の経営方針
- ✓ 事業ポートフォリオに関する考え方
- ✓ 株主還元を含めた、投資方針
- ✓ ESGへの取り組み状況
- ✓ IR活動や情報開示拡充への期待感

【方針】

- ・ 中長期成長のためのM&Aや設備投資を考慮しながらも、営業利益100億円超えを踏まえて株主還元を積極化
- ・ 配当性向基準の設定と累進配当政策の採用で、株主還元を高めていく

* 2024年3月期 : 配当性向21.7% 年70円（中間35円+期末35円）
（当初予定：14.9%）

* 2025年3月期（計画）: 配当性向21.1% 年90円（中間45円+期末45円）



免責事項

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2024年11月現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2024年11月現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

株式会社 トーモク

東証プライム：証券コード 3946

連絡先

mail:3946ir@tomoku.co.jp



2024
健康経営優良法人
Health and productivity